福岡県の主な農産物の生産状況

令和５年１月 13 日現在
（専技情報より抜粋）

◇麦類◇
播種適期である 12 月上旬までに 97％播種が終了（前年同期 93％）しました。
出芽・苗立は良好で、出芽時期は平年並み～やや早いです。
11 月中下旬播きは３～４葉期で、麦踏みが 12 月下旬頃より行われています。
今後、追肥や土入れが行われます。12 月上旬播きは２葉期で、これから麦踏みが行われます。
12 月中旬～１月上旬の低温により、生育は 11 月播きで平年並み、12 月播きでやや遅れています。
一部地域で、カモによる食害被害が見られます。
排水溝を整備し、排水対策を徹底しましょう。麦踏みは土壌水分が低い時に行いましょう。追肥を施用し、土入れを行いましょう。雑草の草種や発生状況を確認し、茎葉処理除草剤を適期に処理しましょう。

◇冬春ナス◇
11 月下旬に年内の出荷ピークでした。12 月中旬の低温・寡日照で、樹勢が低下し、細果も見られましたが、12 月末から好天に恵まれ、年末、年始の出荷量は大幅に増加しました。樹勢は回復傾向で、２月上旬頃から再度増加する見込みです。
灰色かび病、細菌性病害は散見されます。コナジラミ類の発生は多いです。
「PC 筑陽」は着果負担により樹勢が低下しやすいため、適正な着果数を維持しましょう。
２月中旬までに不要な芽を整理しましょう。
ハウスの保温性向上に努め、夜温を確保するとともに、昼間のハウス内温度を 28℃程度に保ちましょう。
多湿による病害の対策を徹底しましょう。

◇イチゴ◇
１番果房の出荷は、ほぼ終了しました。２番果房の出荷は、１月中旬から始まり、出荷量は１月下旬以降徐々に増加する見込みです。
本年は、１～２番果房の出荷の谷が小さく、一部で着果負担の増加による草勢低下が見られます。

早いところで３番果房の出蕾が開始しています。
病害虫は、うどんこ病がやや多く、ハダニ類やアブラムシ類が散見されます。
天候と草勢に応じて、温度や電照管理、摘果などを徹底し、適正な草勢維持に努めましょう。
　うどんこ病、ハダニ類、アブラムシ類などの病害虫対策を徹底しましょう。

◇温州ミカン◇
普通温州が出荷中です。着果が少なく、出荷量は前年より少ない見込みです。
糖度、酸度は平年並ですが、一部で浮皮がみられ、腐敗も発生しています。
貯蔵する場合は、庫内温度５℃、湿度 85％を目安とし、天候や果皮の状態に応じて換気を行い、調整しましょう。
定期的に庫内を見回り､腐敗果の除去を徹底しましょう。

◇トルコギキョウ◇
秋出荷（9～12 月）作型が終了しました。作付面積は減少したものの、出荷量は前年並みです。気温が高く、出荷は平年よりも前進しています。
全国的に出荷量が減少してきているため、販売単価は、前年、過去 5 年平均よりも高いです。
春出荷（３～４月）作型における頂花の発蕾時期は平年並の 11 月下旬～12 月上旬で順調に推移しています。
春出荷（３～４月）作型では、適時、整枝と摘蕾作業を継続し、ブラスチング対策を徹底しましょう。
ハウス内湿度の低下を図り、斑点病、灰色かび病の対策を徹底しましょう。

◇肉用牛・豚・鶏◇
和牛去勢の枝肉価格は、最需要期にかかわらず、物価高による買い控えから量販店等の需要が低迷し、前年比および過去 5 年平均を下回りました。一方で、省令価格は輸入代替として需要は継続しているものの、和牛肉同様に物価高の影響で前年比および過去 5 年平均を下回りました。
豚枝肉価格は、前月同様に外食需要の回復と内食需要が堅調のため、前年比、過去５年平均比ともに上回りました。
鶏卵価格は、飼料価格高騰および鳥インフルエンザの感染拡大の影響で過去最高値となり、前年比 147％、過去５年平均比 145％と大きく上回りました。
高病原性鳥インフルエンザ対策として鶏舎の野鳥侵入防止対策を改めて徹底しましょう。

（野鳥侵入防止対策）
・2㎝以下の網目の防鳥ネットや金網の設置及び補修の徹底
・鶏舎の壁や屋根の隙間の補修や換気扇板の開閉の徹底
・飼料貯蔵施設や貯水施設への野生動物の侵入防止及び異物混入防止の徹底
・野生動物が寄り付きにくい環境整備（鶏舎や施設周辺の清掃と整理、除草など）の徹底